

令和4年10月8日(土)

シンポジウムNo.6  
「災害時の保健医療福祉マネジメントの進め方」

## 避難所・在宅者等の支援

○研究分担者 相馬幸恵(新潟県三条地域振興局健康福祉環境部(三条保健所))  
研究協力者 奥田博子(国立保健医療科学院健康危機管理研究部 上席主任研究官)  
川田敏子(静岡県健康福祉部感染症対策局新型コロナ対策企画課 参事)  
佐々木亮平(岩手医科大学看護教育センター人間科学科体育学分野 助教)  
山崎初典(神戸市健康局担当局長(保健企画担当))

# 日本公衆衛生学会 COI開示

発表者名:相馬幸恵

演題発表に関連し、発表者に開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

## 概要

- ◆被災者は、避難所以外にも自宅、車中泊等、地域全体に広がり避難している状況
- ◆支援者は、県内外の保健医療福祉活動チーム、地域の支援機関等、様々な機関
- ◆避難者の情報を早期かつ迅速に把握し、必要な支援を提供することが求められる

↓

1. 避難所アセスメントを始めとした避難所における情報把握及び支援の方法を検討  
⇒ **避難所日報を作成**
2. 災害時要配慮者(含む避難行動要配慮者)の避難支援に係る自治体における平時の準備体制や発災時の実際とその課題について検討  
⇒ **4自治体への聞き取り調査の実施、課題検討**

## 1. 避難所アセスメントを始めとした避難所における情報把握及び支援の方法を検討

## 避難所日報

- ◆ **2シートの作成**  
「避難所状況シート」…避難所全体の把握  
「避難者情報シート」…医療保健福祉ニーズのある避難者の把握

【作成ポイント】

- ① 日報を使う者は、保健師をはじめとする保健医療活動を担う職員(事務職を含む)である
- ② 災害直後からフェーズの経過とともに、中長期的に使い継続性がある
- ③ 迅速に避難所全体像の把握ができるもの

- ◆ **記載要領の作成**

【留意点】

- ・日報の記載に負担をかけないよう、全ての項目を関係者等に確実に聞き取って記載するのではなく、前日までの様々な情報等を参照する
- ・特に優先的に収集する情報については太枠項目とした

- ◆ **OCR化による情報の一元化を想定**

### 避難所状況シート

### 避難所日報

### 避難者情報シート



## 4自治体への聞き取り調査結果

### 1. 平時の準備

- ・災害時要配慮者の要件は、自治体によって大きな差はないが、具体的な要件は異なっていた。
- ・避難行動要配慮者の名簿台帳の提供は、一律ではなかった（自治会長、民生・児童委員、消防団、まちづくり協議会等の地域役員や団体等）
- ・名簿提供を受けた地域関係者の役割は、平時からの声掛け、訪問による安否確認、避難方法の確認など
- ・避難行動要支援者の個別支援計画は、対象者全員の作成に至っていない
- ・医療機器装着者等の要医療ケアが必要な者については、避難行動要支援者の要件として明記はなく、その把握は、介護支援専門員、訪問看護ステーション等からの把握

### 2. 避難勧告時の対応

- ・名簿台帳を提供している地域関係者が、見守り、避難誘導している
- ・ケアマネージャーや地域包括支援センターが民生委員等とも連携している
- ・その際の対象者への確認事項、聞き取り項目は明確ではなく、部署間共有情報シートの作成はない状況

### 3. 発災時の動き

- ・発災直後の安否確認、健康ニーズの把握については、高齢者や障害者は民生・児童委員、医療ケア者は保健師が行っている
- ・その際の情報共有シートはない状況

13

## 在宅者等の情報収集・支援に係る課題

### 1. 人員体制の強化

- ・平時から協働できる地域の関係団体間、自治体内（総務・防災部署と保健医療福祉部署など）**協力体制の構築、顔の見える関係づくり**

### 2. 関係機関間の情報の共有化

- ・健康ニーズ、生活支援ニーズ等把握のための**情報項目の共有化**

### 3. 支援拠点づくりと情報提供する方法の検討

- ・情報の共有化、情報提供と必要な支援提供するための**拠点づくり**

### 4. 人工呼吸器装着者等の在宅医療ケアが必要な者、早期に対応が必要な者への具体的支援の明確化

- ・リスト化と保健所と市町村（防災局と保健医療部署）、**地域支援者との連携**

### 5. 個別支援計画作成の推進

### 6. 在宅避難者自身からの情報発信

- ・SHS等の活用

地域の実情にあった支援ネットワーク体制の構築

14